

自然換気による外気流入について

(屋内退避勧告、及び避難時の換気設備停止方法 補足資料)

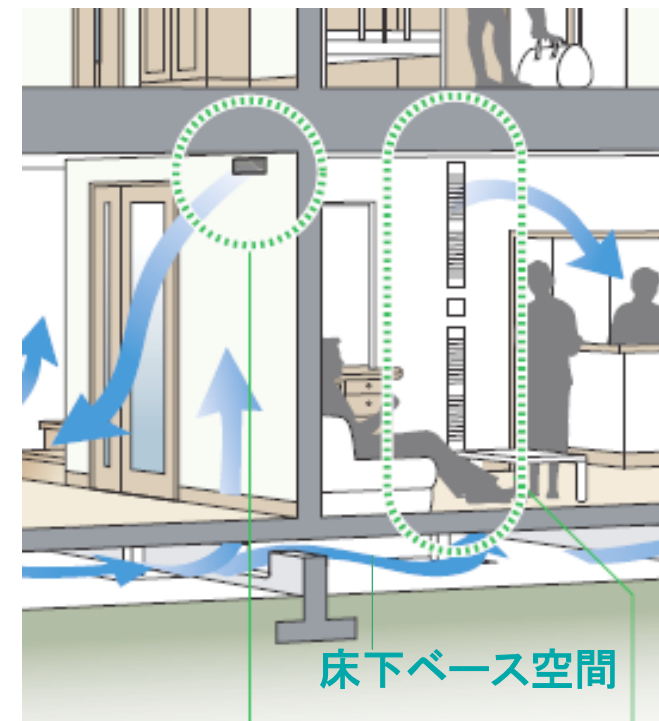
パナホームの住まいの気密レベルは、一般的な在来木造と比べて家全体の隙間が少なく、外気の流入が少量です。

「呼吸の道タワー」や換気間仕切は、外気の流入口を遮断するシャッター機構がないため、ファンを停止しても自然換気による外気の流入が考えられますが、その量は一般的な在来木造と比べて少量(*)です。

※パナホーム: 4~5cm²/m² (呼吸の道タワー・換気間仕切の換気面積含む)
在来木造: 5~10cm²/m²

【パナホームの換気システムについて】

パナホームの住まいは、機械・自然換気併用の換気システムです。機械換気、自然換気のどちらも、床下ベース空間から呼吸の道タワー、換気間仕切を通して外気を取り入れ、換気煙突や自然換気口から排出されます。冬場は呼吸の道タワー、換気間仕切のファンを停止した状態でも、室内外の温度差で自然換気が働き、必要な換気量が確保できます。(沖縄などは除く) 今回のような換気煙突や自然換気口を閉じ、呼吸の道タワー、換気間仕切のファンを停止した状態においても、換気量は少ないものの、床下ベース空間から外気が流入し、住宅のいろいろな隙間から排出される自然換気が発生します。但し、その量は上記で示したように一般的な在来木造よりは少ないレベルです。



換気間仕切

呼吸の道タワー